

# こう書いても大丈夫？ ～許容の形～

新しい指導を考える会

漢字のテストを実施し、いざ丸付けをしようとしたとき、「これは、正解(○)にしているのだろうか?」「土の横画の長さが反対になっているから間違いだな。」「画の接し方についてはこれでいいのだろうか?」など、正解か間違いか迷った経験があるのではないのでしょうか。実は、これは許容の書き方なのか、そうでないのかを判断する必要があったのです。ここでは、許容の形について考え、今後の漢字指導に役立ててほしいと思います。

## 1 「許容の書き方」の考え方

常用漢字表の(付)「字体についての解説」の中の「第二 明朝体活字と筆写の楷書との関係について」では次のように述べられています。「個々の漢字の字体(文字の骨組み)を、明朝体活字のうちの一つを例に用いて示した。このこと

は、これによって筆写の楷書における書き方の習慣を改めようとするものではない。字体としては同じであっても、明朝体活字(写真植字を含む)の形と筆写の楷書の形との間には、いろいろな点で違いがある。それらは、印刷上と手書き上のそれぞれの習慣の相違に基づく表現の差と見るべきものである。以下、分類して例を示す。…これは、私たちが

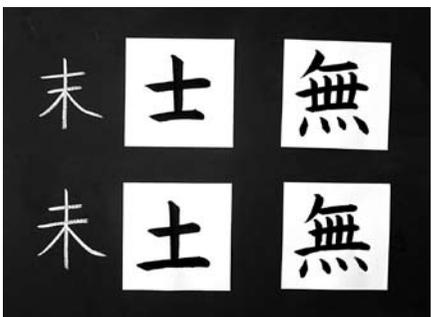
## 2 「許容の書き方」の実際

それでは、実際に指導するにあたってどんな点をポイントに、指導すればよいのかを考えていきます。

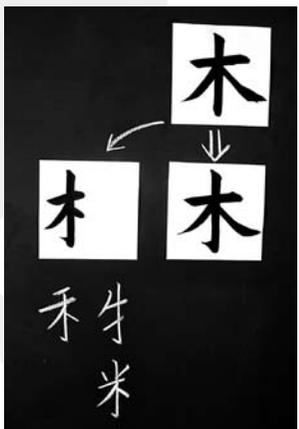
### 画の長短に関する例

横画の長短によっては、違う漢字になってしまうものもあります。「土・土」、「末・末」など( )しかし、横画の長短を変えても許容の文字があります。例えば、「無」は三画目と八画目の長短が変わっても許容の形です。(図1)

このように、横画の長短によって、許容であるかないかを判断する必要がありません。「天」も上下の横画の長短が変わっても、許容の形です。「蚕」も同様に考えてよい文字です。



(図1)



(図2)

漢字の指導をする際、特に、許容の書き方を考えるときに重要なことと考えます。

また、<sup>\*</sup>小学校学習指導要領解説国語編では、漢字の指導の取り扱いについて、「(ウ)漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。」「(中略)」「(ウ)は、漢字の標準的な字体の拠り所を示している。漢字の指導の際には、学習指導要領の『学年別漢字配当表』に示された漢字の字体を標準として指導することを示している。しかし、この『標準』とは、字体に対する一つの手掛かりを示すものであり、これ以外を誤りとするものではない。児童の書く文字を評価する場合には、『常用漢字表』(昭和五十六年内閣告示)の『前書き』にある活字のデザイン上の差異、活字と筆写の楷書との関係なども考慮することが望ましい。」と解説しており、どこまで許容されるのかの根拠となります。

このことを踏まえ、常用漢字表の「筆写の楷書では、いろいろな書き方があるもの」に分類されている観点を含め、実際の許容の書き方について考えていきたいと思います。

### 終筆に関する例

#### ① 途中にある縦画の終筆をはねてもよい例

終筆は、「止め・はね・払い」のいずれかです。ここでは、終筆の例についてみてみましょう。

例えば、「木」の二画目の縦画ははねてもよいということです。応用すれば、「木(きへん)」の縦画もはねてもよいこととなります。その他、「キ(うしへん)」「禾(のぎへん)」「米(こめへん)」の縦画もはねてもかまいません。(図2)

▼「木(きへん)」「キ(うしへん)」「禾(のぎへん)」「米(こめへん)」のある文字

一年	校・村・林
二年	科・秋
三年	横・橋・根・植・相・柱・板・様・物・秒
四年	械・機・極・材・札・松・梅・標・特・牧・種・利・粉・料
五年	桜・格・検・構・枝・移・税・程・精
六年	株・机・権・樹・棒・枚・模・私・秘・糖

② 最終画の縦画を払ってもよい例

学習指導要領の「学年別漢字配当表」では、最終画の縦画は、止めているのか払っているのか明確ではありません。この最終画の縦画を払うことも許容の書き方と考えるとよいでしょう。

▼最終画が縦画の文字

一年	耳・車・十・千・川・早・草・中・年
二年	科・帰・牛・計・午・算・市・姉・新・南・半・用
三年	界・岸・研・庫・幸・州・所・章・申・神・都・鼻・筆・部・平・命・羊・洋
四年	印・希・訓・軍・郡・耕・席・折・節・卒・帯・単・仲・料
五年	準・解・幹・許・群・件・耕・師・準・常・断・布・婦・弁・綿
六年	律・針・革・干・揮・郷・降・濟・障・針・扨・肺・棒・幕・郵・卵

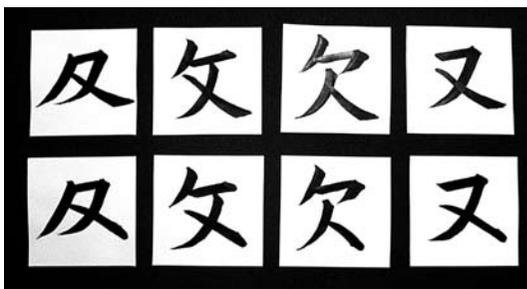
③ 払いを止めてもよい例

(1) 右払いの例  
「又・欠・夂・夊」などの右払いは止めても許容の形と考えられます。(図3)

▼「又」・「欠」・「夂」・「夊」のある文字

二年	歌・教・数・夏・後・麦
三年	輕・取・受・度・投・波・反・坂・板・皮・服・返・役・飲・次・整・放
四年	径・最・殺・努・欠・改・救・散・敗・牧・愛・変
五年	仮・経・護・支・枝・授・設・破・版・報・資・故・修・政・敵・務・酸・復・復
六年	穀・収・段・暖・欲・敬・警・激・巖・枚・腹・優

(図3)



(図4)



(2) 左払いの例

左払いを止めてもよい例もあります。「非・悲・俳」などがそれに当たります。

画の方向が変わる例

左払いが横画に変化する許容の例もあります。「匕」のある文字がそれに当たります。また「系」のある文字も同様です。その他「風・考・橋」なども、左払いが横画に変化してもよい許容の形と考えていいでしょう。さらに「匕」のある文字は、終筆のはねを止めても許容の形です。(図5)

(図5)



▼「匕」・「系」のある文字

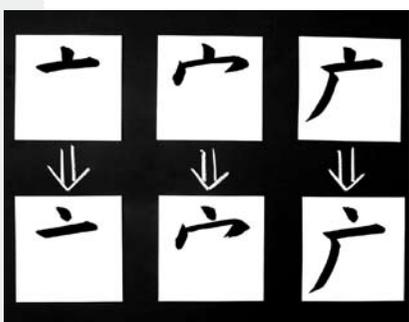
一年	花
二年	北
三年	化・階・死・指・係
四年	貸・老・孫
五年	混・態・能・比
六年	疑・批・陞・系

点画の接し方に関する例

① 点と横画の接し方の例

「𠂇(まだれ)」「𠂈(やまいだれ)」「𠂉(うかんむり)」「𠂊(なべぶた)」の一画目は下の横画から離してもよく、画の方向が変わっても許容の形です。(図6)

(図6)



▼「𠂇」のある文字

二年	広・店
三年	庫・庭・度
四年	康・席・底・府
五年	応・鉦・序
六年	拡・座・庁・糖

▼「宀」のある文字

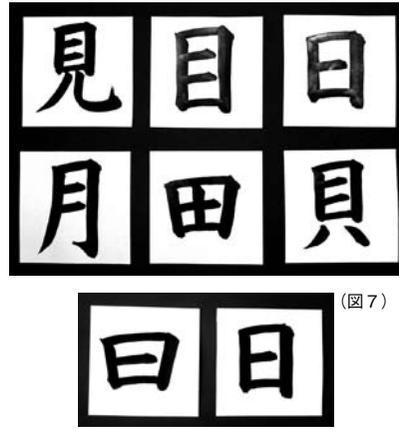
一年	空・字
二年	家・室
三年	安・院・寒・館・客・究・宮・実・守・宿・定
四年	案・害・完・官・管・察・貯
五年	演・額・寄・富・容
六年	宙・宝・密

▼「冫」のある文字

一年	音・校・文・立・六
二年	親・京・交・高・市・姉・新・方・夜
三年	暗・意・育・商・章・族・对・童・倍・部・放・遊・流・旅
四年	航・位・億・旗・泣・鏡・競・衣・産・辞・卒・停・变・望
五年	液・境・効・接・率・適・敵・統・防
六年	肺・訪・濟・裁・就・熟・障・装・亡・忘・裏

## ② 横画の終筆と縦画の接し方の例

「日・目・見・貝・田・月」など、中にある横画の終筆は、右側の縦画から離して止めても許容の形です。(図7)



(図7)

## 筆順が変わる例

「糸(いとへん)」のある文字は四、五、六画目の部分の形が変わり、筆順が変わっても許容の形です。また、四画目をはね、五画目を止めてもかまいません。

(図8)



## ▼「糸(いとへん)」のある文字

二年	三年	四年	五年	六年
絵・細・紙・線・組	級・終・緑・練	紀・給・結・続・約	綿 経・織・績・絶・総・統・編	絹・紅・縦・縮・純・納

## 曲がりを折れ払いにしたり、はねを払ったりする例

曲がりを折れ払いにしたり、はねを払ったりしても許容の場合があります。「切・改・望」がそれに当たります。(図9)

(図9)



## 3 おわりに

今回は許容の形について取り上げました。許容とは「こう書いてもよい」ということであり、「こう書かなければならない」というものではありません。

速く書くための一つの工夫として、また、字形を整えるため、そして、行書への移行も考えて許容の書き方があると考えてよいでしょう。

漢字指導をするときには、この点を念頭に置いて指導することが大切です。

### 【参考文献】

- ・『書写三・四・五・六年』（光村図書）
- ・水田光風編著『字形と筆順』（光村図書）
- ・白木龍竹著『漢字書き取り字典 標準字体と許容のめやす』（日本習字普及協会）

### 【補注】

※文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』一〇六・一〇七ページ